

# 令和3年度卒業式 式辞

## 海上技術コース(専攻)

厳しい寒さは過ぎ去り、少しずつ春めいた暖かな日が訪れてきました。

本日このよき日に、令和3年度海技大学校卒業式を挙行できますことは、本校にとりまして大きな喜びであり、教職員を代表し、一言お祝いの言葉を申し上げます。

海上技術コース(専攻)の諸君、卒業おめでとうございます。

諸君が入学した令和2年4月は新型コロナウイルス感染症対策のため入学式は実施せず、海技大学校に来校する事無く、通信教育を開始しました。対面授業を開始したのは、令和2年7月1日です。諸君は、令和3年1月から大型練習船により乗船実習を開始し、7月からは社船による乗船実習を開始しました。世界中で新型コロナ感染症が拡大する中での乗船実習であったため、船員の乗下船が制限される中、色々な苦勞が有ったものと推測致します。

諸君は海技大学校の2年間で、大学及び大学院で獲得した知識を基礎として、三級海技士に必要な知識、技術を学んできました。航海科と機関科では異なりますが、幅広い内容を習得する必要があったと思料いたします。中には一級海技士国家試験筆記試験合格まで取得した方が居ると思いますが、ここで学ぶことは終了ではなく、今から始まると思ってください。習うは一生という諺があります。新しいことを知り、身に付けていくためには、人は、一生を通じ、常に学ばなければならないとい

う意味です。今後、航海士及び機関士として現場で必要となる知識、技術を身に着けるために、あるいは条約等が変更となり新たな知識、技術を取得するために、新たな勉強が必要となります。一生を通じて学ぶ姿勢を第一としてください。

船の世界は、新しい技術の導入により、大きくその姿を変えてきました。最近では、無人運航船、遠隔操縦船、あるいは水素、アンモニア燃料船等の名称を業界誌などで目にします。近い将来、新しい技術の導入が更に進み無人運航船、遠隔操縦船が世界の海を航海し、推進プラットフォームで使用する燃料は、重油、LNG を経て水素、アンモニア燃料に代わる日も、現実味を帯びてきました。現に日本財団が主導している MEGURI2040 プロジェクトでは、無人運航船の実証実験が成功しています。しかしながら、どんなに技術が発達し、船員を取り巻く環境がいくら変化しようとも、船員のスキルが、船舶運航の核であることは、将来にわたっても変化しないでしょう。

本校を卒業し、航海士及び機関士として、世界に羽ばたいていくことになりますが、常に学ぶ姿勢を忘れないで、真摯に仕事に向き合い、仕事を確実に実施できる船員になっていくことを期待しています。

最後に、卒業生諸君の希望に満ちた船出を祝し、益々の健康と、前途に幸多からんことを心から祈念して、式辞といたします。

令和4年3月18日

独立行政法人海技教育機構 海技大学校長 前田 潔